

大桑 特別号-1 まさたか

さかえく せかい か
栄区から横浜を変える！



横浜市議員 2期目
よろしくお願ひします！

選挙の前も、選挙の後も、大桑新聞を配り続けます！
栄区から、しがらみのない市政(政治)を実現します！

《 公 約 》

現在を含め未来のために持続可能な横浜(社会)をつくる！

持続可能な社会を作る！

私が政治活動をしていく上で、これまでも繰り返し書かせて頂いていますが、今後も「持続可能」という言葉をキーワードとしていきたいと考えてます。この「持続可能」という言葉を地球規模で考えると、我々人類が、この地球においてすべての動物や植物と共に生きていける社会を作ることだと私は考えます。また、この「持続可能」という言葉をもとに今の日本を見ると、まず1,000兆円を超える借金を抱えている財政の健全化が必要だと思ひますし、年金問題や地球温暖化など、持続可能な社会を作るために解決しなければいけない様々な課題があります。

当然、横浜市も「持続可能」という言葉をもとに財政の健全化に努めなければいけません。借金が増えればそのツケは、必ず、市民にまわってきます。また、緑を守り・育て、今ある自然環境を次世代に引き継ぐのも、我々、大人の責任です。

日本の人口はすでに減少に転じています。また、横浜市についても2020(平成32)年頃には人口が減少に転じるといわれています。これまでも同じようなことを書いてきましたが、人口が減少すれば、国の税収も横浜市の税収も減少します。しかし、少子高齢化が続く限り、医療費や介護費は増加し続けます。収入が減り、支出が増える可能性が高い以上、今から借金を減らさなければ日本や横浜市の財政は破綻します。もし財政が破綻すれば今以上の負担が皆さんにかかることとなります。ご理解頂ければ幸いです。

大桑新聞 特別号-1

プロフィール 大桑 正 貴(まさたか)

発行元

横浜市議員 大桑正貴

〒247-0005 神奈川県横浜市栄区桂町688-4-601

HP : <http://m-okuwa.net/>

E-mail : m-okuwa@mvg.biglobe.ne.jp

昭和48年(1973年)7月4日生まれ横浜育ち 血液型 A 型
横浜市立小山台小学校入学
大分県立大分舞鶴高校入学(1年次冬、転勤で横浜へ戻る)
神奈川県立大岡高校卒業
神奈川大学法学部法律学科卒業
平成14年(2002年)12月 アシスト株式会社退職
平成15年(2003年)4月 横浜市議員 初当選
平成19年(2007年)4月 横浜市議員 2期目当選
平成21年(2009年)9月 明治大学 専門職大学院卒業
趣味 : サッカー、バスケットボール
家族 : 妻、子(2人)、ママ(猫)、グリ(犬)

カンパのお願い！

法律により、「法人」や「匿名の方からの年間5万円以上」のカンパは受け取ることが出来ません。

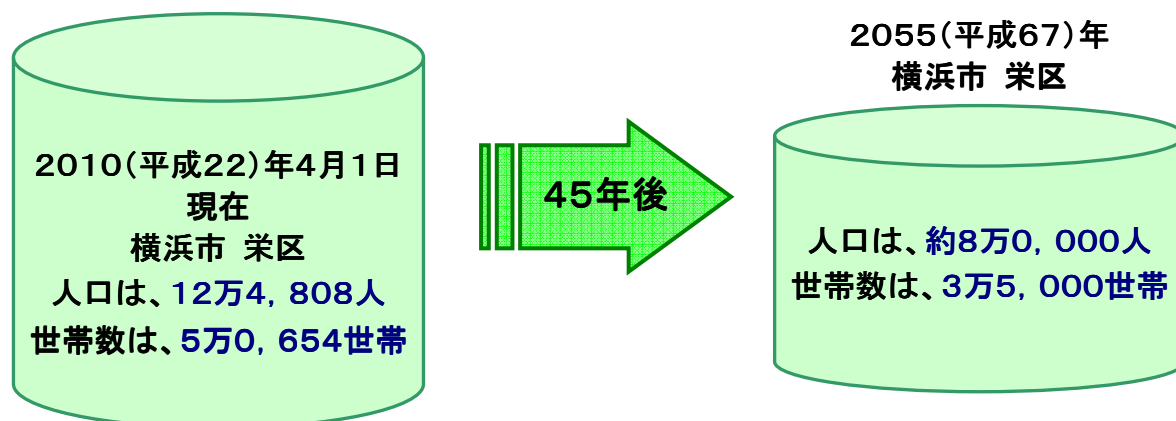
振込先 : 三菱東京UFJ銀行 港南台支店 普通口座 1097570

口座名義 : 大桑正貴としがらみのない政治を実現する会 大桑 正貴

JR 大船駅・JR 本郷台駅・JR 港南台駅、いずれかの駅で配布しております。

栄区(横浜市)の現状と今後の課題

2010(平成22)年4月1日現在の栄区の人口は、**12万4,808人**(横浜市の人口は、367万2,985人です)。世帯数は、**5万0,654世帯**となっています。しかし、横浜市の将来人口推計によると、2055(平成67)年、45年後には、栄区の人口は**約8万人(約4万5千人減少)**になるとされています(横浜市の人口は、約320万人です)。また、世帯数でいえば、**約3万5千世帯(約1万5千世帯減少)**まで減少することになると思います。横浜市の人口はあと10年程度は増加するとされていますが、その後は減少に転じると予測されています。この人口減少や世帯数の減少は、栄区や横浜市にとっては大きな問題になると、私は考えています。



※人口は、約4万5千人、世帯数にすると、約1万5千世帯減少すると予想されている。

私が人口減少や世帯数の減少を問題だと考えるのは、人口が減少することにより、税収が減り、道路や水道、下水道を維持管理する財源が少なくなり、結果的に「まち」が維持できなくなる可能性が出てくるからです。また、公共施設なども老朽化が進んでいますので、財源がなければ更新ができなくなる可能性が高まります。横浜市内の道路延長は約7,500km。水道は約9,000km。下水道は約11,000kmあります。これは、今の横浜市の税収だから何とか維持管理をすることができます。しかし、維持管理するための財源が減れば、道路や水道、下水道を維持管理することはできなくなり、我々の生活に支障をきたすこととなります。

次に、人口が減少することにより世帯数が減少すれば、空き地や空き家が増えることとなります。空き家が増えれば、治安も悪化するでしょう。そうなる前から、計画的にまちをコンパクトにまとめていかなければ(人が住むところと、それ以外のところの線引きをし直すなど)、栄区中に空き地や空き屋が点在することになり、「まち」の活力が失われてしまいます。具体的には、空き地が増え家々が栄区内に点在することになれば、たとえば、バス路線も採算面などから撤退する可能性も出てくるでしょう。また、栄区内で営業している、商店も今まで以上に営業を続けていくことが難しくなるでしょう。

最後になりますが、これまでの横浜市(栄区)は、「まち」が広がっていく前提でまちづくりをしていました。しかし、これからの横浜市(栄区)は「まち」をどのように小さくしていくかが課題となります。もし、計画的に「まち」を小さくする(コンパクトにまとめる)ことができなければ、今まで書いてきたような問題がおこってきます。これからのまちづくりのために、みなさんも栄区(横浜市)の課題を認識して頂ければ幸いです。



大桑新聞では、みなさまとともに、
栄区について考えていきたいと思っております。

HP : <http://m-okuwa.net>

E-mail : m-okuwa@mvg.biglobe.ne.jp

JR大船駅・JR本郷台駅・JR港南台駅、いずれかの駅で配布しております。